JR東日本ニュース

2018 年 11 月 6 日

東日本旅客鉄道株式会社

第７次安全５カ年計画 ー「グループ安全計画２０２３」を策定しました

ＪＲ東日本では、会社発足以来、安全を経営のトッププライオリティと位置づけ、過去６回の安全５ヵ年計画に基づき安全性向上に取り組んでまいりました。

本年７月にはＪＲ東日本グループ経営ビジョン「変革２０２７」を策定し、「究極の安全」を追求することにより、グループのあらゆる活動の基盤である、お客さまや地域の皆さまからの「信頼」をさらに高める取組みを進めています。

一方で当社グループを取り巻く環境は、人口減少、ICT を中心とする技術革新、自然災害の激甚化など、非常に激しく変化しており、その変化は今後も急激に加速していくことが見込まれます。

このたび、新たな安全５ヵ年計画「グループ安全計画２０２３」～「進化」と「変革」～を策定しました。一人ひとりの「安全行動」を起点に、「究極の安全」を追求していきます。

グループ安全計画２０２３では、「一人ひとりの『安全行動』の進化と変革」「『安全マネジメント』の進化と変革」「新たな技術を積極的に活用した安全設備の整備」という取組みの３本柱のもと、環境変化に的確に対応して具体的な取組みを進めていきます。

なお、５年間の安全に関わる投資額は約１．２兆円を見込んでいます。

１　名称

「グループ安全計画２０２３」～「進化」と「変革」～

２　コンセプト

一人ひとりの「安全行動」を起点に、「究極の安全」へ

３　目標

＜５ヵ年計画の目標＞（数値目標は２０１８年度比）

鉄道運転事故※の発生件数：２割減

・当社グループに起因する鉄道運転事故：ゼロ
・ホームにおける鉄道人身障害事故：３割減
・踏切障害事故を着実に減少
・自然災害に対するリスクの着実な低減

※鉄道運転事故とは列車事故（列車衝突事故・列車脱線事故・列車火災事故）、踏切障害事故、鉄道人身障害事故および鉄道物損事故をいう

＜到達点＞

お客さまの死傷事故ゼロ、社員※の死亡事故ゼロ

※ＪＲ東日本、グループ会社、パートナー会社など、鉄道の仕事に携わる人すべて

４　基本的な考え方

・全社員一人ひとりの力を引き出す
・技術革新を積極的に推進、展開する
・これまで以上にホーム・踏切の安全対策および防災対策に注力する

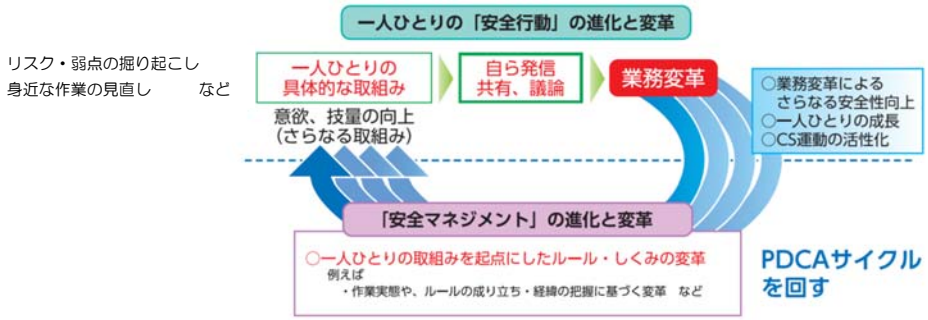
５　取組みの３本柱

具体的な施策は、以下の３本柱に基づき、グループ会社、パートナー会社、協力会社と一体となって取り組んでまいります。

（１）一人ひとりの「安全行動」の進化と変革

一人ひとりが、これまでの取組みをそのまま実行するだけでなく、「仕事の本質」を理解した上で、起こりうるリスクを徹底的に掘り起こすなど、環境変化に対応して「進化」させます。

さらに、日々の作業の中で実態と合わなくなっている身近なルールや作業環境に気づき、それを発信、共有、議論し、職場や支社、本社と一体となってルール・しくみを見直す、現場第一線の技術革新を推進するなど、新たな取組みにより「変革」していきます。



一人ひとりの「安全行動」と「安全マネジメント」が一体となった業務変革

（２）「安全マネジメント」の進化と変革

◆安全文化のさらなる進化

グループ全体の確固たる行動規範である「危ないと思ったら列車を止める！」の徹底、リスクを徹底的に掘り起こすなど様々な視点を取り入れることによる「CS 運動（チャレンジ・セーフティ運動）」のさらなる活性化、などを進め、安全の取組みの土台である安全文化を引き続き大切に守り進化させていきます。

◆環境変化に対応した人材育成の推進

・体系的な「安全を担う人づくり」

職場や支社で「安全の取組みの核となる人」として、「安全エキスパート」をさらに育成し、安全に関する知識・指導力・技術力を持った社員を拡大していきます。

・「仕事の本質」の理解の促進

教育訓練設備を徹底的に活用して、より実践的な訓練を実施し、「仕事の本質」の理解を促進していきます。

・一人ひとりが学び、行動できる環境整備

本年 10 月に拡充した事故の歴史展示館への全社員訪問の実施など、「過去の事故を教訓化する」取組みを推進していきます。

「安全の取組みの核となる人」を軸にした「安全を担う人づくり」

事故の歴史展示館への全社員訪問の実施

◆新たなリスクを捉えルール・しくみを変革

・一人ひとりの取組みを起点にしたルール・しくみの変革

・未来予測型の安全対策の推進

車両、設備やホーム、踏切などの各種モニタリングデータから得られるビッグデータ、AI、IoT などを活用して異常の予兆を捉える技術を実用化していきます。

さらに、「グループ会社、パートナー会社、協力会社が安全に作業できる体制のさらなる整備」や、「新幹線に関するさらなる安全対策」を進めていきます。

（３）新たな技術を積極的に活用した安全設備の整備

「グループ安全計画２０２３」では約１．２兆円の投資額を見込みます。
（「グループ安全計画２０１８」に比べ２千億円の増額）

＜当社グループに起因する鉄道運転事故ゼロのために＞

◆鉄道の運転の基幹となる設備の強靭化

・在来線、新幹線設備の強化および老朽化対応
・線閉・保守作業システムの導入拡大　など

電力設備の強化（インテグレート架線）

新幹線のレール更新

◆新たな技術による鉄道のシステムチェンジ

・CBM（状態基準保全：Condition Based Maintenance）等のモニタリングの積極的展開
・新幹線台車モニタリングの開発
・次世代新幹線の実現に向けた試験車両（ALFA-X）の新造　など

CBM 等のモニタリングの積極的な展開

試験車両（ALFA-X）の新造

＜ホームにおける鉄道人身障害事故３割減のために＞

・東京圏在来線の主要路線全駅へのホームドア整備の加速
・CP ライン※の整備
・画像認識技術等を活用したホーム上の異常を検知する技術の開発　など

※CPライン：CPとは、「Color Psychology（色彩心理）」の略で、ホーム端部を赤またはオレンジ色に着色することにより、注意喚起するもの。

在来線ホームドア整備の加速

CP ラインの整備

＜踏切障害事故の着実な減少のために＞

・全方位警報灯整備の加速
・より高機能化した踏切障害物検知装置の開発、導入
・自動車業界との連携による ITS（高度道路交通システム）技術等の活用　など

全方位警報灯整備の加速

踏切障害物検知装置の整備

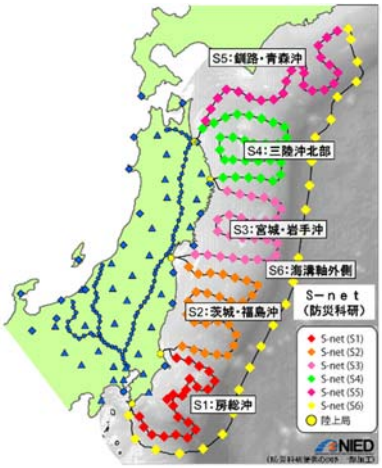
＜自然災害に対するリスクの着実な低減のために＞

・首都圏直下地震を踏まえたさらなる耐震補強対策の実施

・海底地震計情報の活用海域拡大や早期検知地震計の改良による地震の早期検知

・気象レーダ雨量による運転規制の導入　など

耐震補強対策の実施



海底地震計情報の活用海域拡大

以上の各種取組みにより、「鉄道運転事故：２割減」を目指していきます。

計画の全体像については、別紙をご覧ください。

主な内容については、下記リンク先をご覧ください。

http://www.jreast.co.jp/safe/pdf/group_safetyplan2023.pdf

「グループ安全計画2023」の全体像

別紙

大きな変化・変革の時代

社外の環境変化

- 少子高齢化
- AI、IoT等の技術革新
- 社会からの期待の高まり
- 自然災害の激甚化
- テロ等の脅威の可能性
- など

社内の環境変化

- 急速な世代交代の進展
- 技術の急速な進歩
- 水平分業の深度化
- 重大な事故・事象に遭遇する機会の減少
- 新幹線の高速化・ネットワーク拡充
- など

大きな環境変化に
的確に対応

[変えざるもの]
継続して進めてきた
安全の取組みを
環境変化に対応して

「進化」＋「変革」

[変えていくべきもの]
技術革新をもとにした
新たな取組みにより

グループ会社、パートナー会社、協力会社と一体となって

一人ひとりの「安全行動」を起点に、「究極の安全」へ

基本的な考え方

○**全社員一人ひとりの力を引き出す**

○**技術革新を積極的に推進、展開する**

- 未来予測型の安全対策
- 新幹線に関する安全対策の強化
- 鉄道のシステムチェンジの推進

○**これまで以上にホーム・踏切の安全対策および防災対策に注力する**

命を守る **「究極の安全」** 不断に追求すべき「状態」

到達点 **お客さまの死傷事故ゼロ、社員の死亡事故ゼロ※**

※JR東日本、グループ会社、パートナー会社など、鉄道の仕事に携わる人すべて

5年間の目標

数値目標は2018年度比

鉄道運転事故：2割減

当社原因の事故完封	・当社グループに起因する鉄道運転事故：ゼロ
より安全なホーム・踏切を実現	・ホームにおける鉄道人身障害事故：３割減 ・踏切障害事故を着実に減少
災害・テロによるリスクを低減	・自然災害に対するリスクの着実な低減

重大インシデント：ゼロ

「グループ安全計画2023」の3本柱

① 一人ひとりの「安全行動」の進化と変革

② 「安全マネジメント」の進化と変革

- 環境変化に対応した人材育成の推進
- 新たなリスクを捉えルール・しくみを変革
- 安全文化のさらなる進化

③ 新たな技術を積極的に活用した安全設備の整備